

台湾新竹調査報告

産業集積くまもと未来委員会

2025年10月10日

熊本フォーラム

調査概要（１）

1. 調査の目的

- サイエンスパーク周辺地区の状況の理解が不足しており、サイエンスパーク創設からの新竹地区の変化について現地でヒアリング調査し、熊本の将来の影響についての議論に資する。

2. 項目

- 新竹地区の発展経緯の事実関係
- 地域経済、関係者への影響（功罪）
- 現時点の課題等
- 熊本への含意（仮説）

3. 期 間 2025年9月16日(火)～18日(木) 2泊3日

4. 参加者

- 委員会メンバー他13名 井原宏・田上聖子・瀬口力・永田佳子・永田史朗・阿部敬行・塚田利郎・日朝洋介丸野・野香代子・吉岡圭一・謝翔吃・横田憲司・山川秀明（順不同・敬称略）

調査概要（２）

1. ヒアリング先

1. サイエンスパーク・行政関係者等 5社
 - ・ 經濟部中小企業署、国家技術委員会新竹科学園區管理局、
 - ・ 工業技術研究院
 - ・ 新竹県（産業発展処、行政処）
 - ・ 新竹市（都市発展処、産業発展処、交通処等）
2. 新竹エリア現地関係者（地元、民間企業等） 6社
 - ・ スミトロニクス台湾（サプライヤー）
 - ・ 海悦（ディベロッパー）
 - ・ 新竹地元企業（自動車修理、ホテル、食堂、建設）
3. 事前資料作成、調査協力 3社
 - ・ みずほ銀行台北支店、
 - ・ 肥後銀行台北駐在員事務所
 - ・ 台湾三井不動産

2. 2班に分かれヒアリングを実施



新竹サイエンスパークには新竹、龍潭、竹南、銅鑼、バイオテック及び宜蘭の6基地を有し、総敷地面積1,471ヘクタール、入居企業600社以上、従業員合計約17万人、年間の売上高1億円を超えています。

また、周辺に工業技術研究院をはじめ、国立清華大学、国立陽明交通大学など有名な研究機関及び教育施設があり、パークに豊かな人材、公共職業訓練及び研究開発に適切な環境を提供しています。

入居企業が安心して営業活動を展開できる環境を作り出す所存です。





TSMC工場群

グローバルR&Dセンター
地上10階地下7階
2023年開設 7,000人の技術者集結

隣接するFab20（建設中）
2025年中に2nm生産開始



サイエンスパーク関係者(1)

• 經濟部中小企業署

- 台湾と日本の中小企業連携強化、特にTSMC進出による熊本との関係深化。
- 新竹サイエンスパークの成功要因：税制優遇、産業クラスター、生活圏との融合。
- 課題：地価上昇、交通渋滞。
- 中小企業の役割強調
（製造・サービス業）、
スタートアップ支援も紹介。



サイエンスパーク関係者(2)

- **工業技術研究院(ITRI)**

- 技術回廊形成、都市化進展。
- 高学歴・高所得・高出生率・低平均年齢の都市像。
- 渋滞・環境問題・文化格差などの課題も。

- **新竹科学園管理局**

- 1980年設立、6大産業限定で入居（半導体等）。
- 高学歴人材が多く、産官学連携が活発。
- 今後はスマート・エコな都市機能を目指す。
- 熊本のJASM視察、国主導の開発の重要性を強調。

行政(1)

• 新竹県政府

- TSMC研究所が竹北に立地、人口流入・地価上昇・渋滞が深刻
- 開発計画は住民説明会を重視、環境配慮も。
- 公共交通の利用促進は難航、モノレール計画も停滞。
- 熊本との交流意欲、
自然と経済のバランスを
重視。



行政(2)

• 新竹市政府

- 都市計画の改訂と科学園區の拡張（竹科X計画）。
- 渋滞対策としてライトレール導入検討。
- 高学歴・高所得・若年層が多く、イベントや育児支援が充実。
- 環境意識高く、TPASS導入など交通施策も。



民間関係者(1)

- **スミトロニクス台湾**（日本資材をTSMCに納入）
 - TSMCの熊本進出は政府補助と顧客保証が背景。トランプ米政権によりサプライヤーも米国投資に関心。
 - 熊本JASMは2期を入れても規模が小さく、サプライチェーン構築は困難では？
 - 教育・交通・生活環境整備が重要。
- **海悦**（住宅販売）
 - TSMCは台湾GDPの約5%を占める巨大企業。
 - 新竹の地価は2.5倍に上昇、教育水準も高い。
 - 熊本の不動産投資は現状魅力薄だが、今後の展開次第。

民間関係者(2)

- **天龍国際吉普車有限公司**

- 自動車需要増加、交通渋滞・補助金不足が課題。
- サイエンスパークによる生活文化の変化（居酒屋・ゴルフ等）。
- 若者の参入と競争激化、地域発展と課題の両面あり。

- **シェラトンホテル**

- 新竹県の急成長によりホテル需要増。
- 地価上昇・交通渋滞など課題も。
- 熊本でも早期の生活圏整備が重要。

民間関係者(3)

• 老復興飲食店

- サイエンスパークの通勤路により飲食店が増加。
- 顧客の約30%がサイエンスパーク関係者。



民間関係者(4)

• Top-Up建築事業團隊

- 建築業界は厳しい状況、物価・地価上昇が課題。
- 教育環境の向上、用途地域の整理が重要。
- 外国人との交流促進が必要。



協力企業

- **みずほ銀行台北支店**

- TSMCの成長が台湾経済に直結。
- 地域格差の実感はあるが社会的な不満には繋がっていない。
- 熊本のサプライチェーン拡張にはSDGs対応やワンストップサービスが鍵。

- **肥後銀行台北駐在員事務所**

- 新竹市の平均年収は熊本より高く教育水準も高い。
- 台湾はジェンダー指数が高く、女性の社会進出が進んでいる。
- 熊本への関心は高く、TSMC進出の認知度も高い。

参加者所感

1.台湾の成功要因

- 国策による計画的な産業育成
- 権限委譲によるワンストップサービス
- 政治の干渉が少ない一貫性ある運営

2.TSMCの影響

- 地域経済・不動産・消費への好影響
- 熊本においても大きな影響力を持つ存在として肯定的に評価
「護国神山」

3. 熊本の課題

- 危機感の不足
- スピード感の欠如
- 住民との共存共栄の視点の弱さ
- 環境問題への配慮

4. 産官学連携の必要性

- 多くの参加者が強調
- 熊本独自の「モデル構築」が求められている

	個別所感
A	台湾の計画性と熊本の依存の違い。行政関係者の視察参加を推奨。
B	台湾の民間エネルギーに感謝。熊本は土地利用・道路整備に スピード感 を。
C	国際競争とスピード感 が鍵。女性活躍とジェンダーギャップの少なさに注目。
D	長期的都市運営 の必要性。住民と産業界の環境認識の差に懸念。
E	既存住民との 共存共栄 が最重要。地域の声を尊重すべき。
F	TSMCの影響力を肯定的 に評価。熊本で経済予測通り発展するための 危機感不足 。
G	TSMCによる 格差も肯定的に受容 。熊本も 積極的な誘致と連携 が必要。
H	新竹の土地不足と 国家プロジェクトとしての意欲 を評価。
I	熊本で サプライチェーンへの直接関与は困難 では。インフラ整備と地域連携が鍵。
J	熊本独自モデル構築が必要。 世界的投資動向を踏まえた迅速な対応 を。
K	新竹の格差と熊本への冷ややかな印象。交通渋滞対策の重要性を強調。

ご清聴ありがとうございました



参考

- 9/30熊本日日新聞「The Future of Kumamoto」
(JTB熊本支店提供)

